

# 有明海・諫早湾で何が起こっているのか

## 記録映画「苦渋の海：有明海 1988—2016」上映会

国の大規模干拓事業による有明海・諫早湾の「閉め切り」（1997年4月14日）から20年が過ぎました。この事業によって失われた広大な干潟は、有明海奥部の豊かな漁業を支える場であり、また多くの絶滅危惧種にとっての貴重な生息場所でもありました。生物学の研究者組織（日本鳥学会、日本生態学会、日本魚類学会、日本ベントス学会など）は、事業の中止・中断、諫早湾の原状復帰などを求める要望書をこれまで7回、国や長崎県などに提出してきました。2010年12月には福岡高等裁判所が「諫早湾の潮受け堤防の排水門の5年間開放」を国に命じる判決を下し、その判決が確定しました。しかし、国が確定判決に従わないという異常な事態が続いています。

この問題のあらましをお伝えした後、新作の記録映画「苦渋の海 有明海 1988-2016」（イワプロ制作、40分）を上映します。干潟の海とそこでの漁業の営みの30年間の変化を記録した貴重な映像です。

**日時：**2017年12月2日（土）午後4時～5時30分

**場所：**鹿児島大学農学部 204号教室

（鹿児島大学の正門正面の建物「農・獣医共通棟」2階右奥）

市営バス、鹿児島交通バス：「鹿大正門前」下車、徒歩2分。

市電2系統：「唐湊」電停下車、徒歩5分。

市電1系統：「騎射場」電停下車、徒歩10分。

（駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい）

**入場料：**無料

※当日は記録映画「苦渋の海 有明海 1988-2016」のDVD（1枚3000円）や関連図書を販売します。

### <プログラム>

**解説「閉め切りから20年の有明海・諫早湾：問題の原点とこれまでの経緯」**

佐藤正典（鹿児島大学理学部）

**映画上映「苦渋の海 有明海 1988-2016」**

ナレーター：堀内正美

監修：富永健司、制作：直子 IWANAGA

監督：巖永勝止志（イワプロ）

**主催：**日本科学者会議九州沖縄地区会議（担当 鹿児島支部）

**後援：**鹿児島大学教職員組合

**問い合わせ先：**

日本科学者会議鹿児島支部事務局（田島）

電話：090-2508-9117，電子メール：y.tajima@beach.ocn.ne.jp

鹿児島大学教職員組合事務局

電話：099-285-7285，電子メール：ka-kumiai@leaf.ocn.ne.jp